

日本民家園だより

わざわ よ
特集 いえやむらの災い除け vol.95

企画展 「病と向きあう
—祈りと医療をめぐる—」

2022年1月4日(火) ~ 5月29日(日)

いえやむらの災い除け

一年を平穩無事に過ごせるよう、私たちは様々な節目において災いを除けるための行事をしてきました。ここでは日本民家園の園内展示で取り上げている行事や、災い除けの石造物をご紹介します。

2月

せつぶん 節分

立春の前日、2月3日は「**節分**」です。この日には「**鬼は外、福は内**」などと唱えながら炒った

豆をまいて、災いをもたらす鬼を打ち祓います。川崎市麻生区細山のある家ではこの日に歳の数だけ豆を食べたほか、年越しそばも食べていました。旧暦ではこの頃が正月にあたり、節分と年越しの行事が混ざったものと考えられます。

大豆はナス殻や豆殻を焚きつけに焙烙鍋で炒り、同時にメザシ（イワシ類の干物）の頭も焼きます。このとき害虫除けのまじないとしてメザシの頭に唾をかけ「**よろず害虫の口を焼く**」などと唱えることを3回繰り返しました。ヒイラギの枝にメザシを刺して「**蘇民将来子孫之門戸也**」と書かれた疫病除けのお札をつけ、屋敷の内外につけました。（川崎市麻生区の事例）

1月下旬～2月上旬
(15)旧北村家住宅

ここで
見られ
ます



大戸口の柱につけた魔除け
(再現、旧北村家住宅)

3月

ひな 雛祭り

3月3日の雛祭りは女児の健やかな成長を願う行事で、「**桃の節供**」や

「**上巳の節供**」「**三月節供**」とも呼ばれます。子どもの身代わりとして人形に災いを移し、海や川に流す習俗がもともになっています。人形とともに、邪気を祓う力があるとされた桃の花を飾り、厄を祓う願いを込めました。

長女が初節供を迎えると、母親の実家や親類、近隣の家から雛人形が贈られました。そのお礼にごちそうをふるまい、菱餅やアワビ、甘酒を返礼としました。当日は五目寿司、刺身、野菜の煮物、揚げ物、蛤の吸物を食べました。

2月下旬～3月上旬
(0)旧原家住宅、
(15)旧北村家住宅

ここで
見られ
ます



雛飾り（再現、旧北村家住宅）

5月

たんご 端午の節供

端午の節供では武者人形を飾り、幟を立てて男児の誕生を祝うとともに、健や

かな成長を願います。人形とともに飾る幟に描かれている鍾馗は疫病除けの力を持つとされる神です。邪気を祓うとされる菖蒲を軒に差したり、菖蒲湯につかったりして無病息災を願います。

川崎市多摩区登戸の清宮家では、長男が生まれると母方から五月幟が贈られていました。室内には鍾馗と神功皇后が描かれたウチノボりを飾り、屋外には吹流しをつけた鯉幟を飾りました。親戚や近所の家からは五月人形が贈られ、お返しにオカシワ（柏餅）とヒダラ（鱈の干物）を贈っていました。

4月中旬～5月上旬
(0)旧原家住宅、
(15)旧北村家住宅

ここで
見られ
ます



武者飾りと菖蒲（再現、旧原家住宅）

12月2月 ヨウカゾウ

12月8日と2月8日に一つ目こぞう小僧がやって来るとして、外出をさ避けたり一つ目こぞう小僧を追い払うためのまじないをしたりしました。川崎では12月8日と2月8日を「ヨウカゾウ（八日僧）」と呼び、秦野市に暮らした北村家の人々は12月8日を「シワスヨウカ」、2月8日を「コトハジメ」と呼びました。

この日は下駄げたなどを屋外に出しておく一つ目こぞう小僧に印を押されて持ち主が病気になるってしまうといい、履物はきものをしまっておきます。あるいは竿の先に目籠めかごをつけて軒先のきさきや家の前かかなどに掲げます。これは一つ目こぞう小僧に籠かごの編み目を目玉かんちがと勘違おそいさせて恐れさせ、退散するように仕向けるためです。

川崎市や横浜市港北区では、メカリバアサン（ミカリバアサン）という目をたくさん持つ魔物まものが来ると伝えられています。こちらかごも籠かごやザルかかを掲げ「ここにも目の多い魔物がいる」と思わせて追い払います。

11月下旬～12月上旬
1月下旬～2月上旬
(15)北村家住宅前

ここで
見られ
ます



家の前に掲げられた目籠
(再現、旧北村家住宅前)

ヨウカゾウと小正月

1月14日頃のどうそじん小正月に行われるセエノカミ（道祖神）の火祭り。セエノカミのもとで正月飾りなどを燃やして無病息災を願うこの行事と、一つ目こぞう小僧の来訪を結びつけて伝える地域もあります。旧北村家住宅があった秦野市では、12月8日に来た一つ目こぞう小僧が災いわざわを与えるべき家や人を帳面に記してそれをセエノカミに預け、翌年2月8日に取りに来るといいます。同様に、川崎市ではメカリバアサン（帳ツケバアサン）が帳面を預けていくと伝えられています。そのため、帳面をセエノカミの火祭りで焼いてしまうことわざわで災いえきびょうや疫病から身を守ろうとしたのです。

- 2月 節分 (1月下旬～2月上旬)
- 2月 ヨウカゾウ (1月下旬～2月上旬)
- 3月 雛祭り (2月下旬～3月上旬)
- 5月 端午の節供 (4月中旬～5月上旬)
- 12月 ヨウカゾウ (11月下旬～12月上旬)

※時期によって展示内容が異なります。

- 3月 雛祭り (2月下旬～3月上旬)
- 5月 端午の節供 (4月中旬～5月上旬)

※時期によって展示内容が異なります。

庚申塔
(青面金剛碑)

石敢當

道祖神、双体道祖神
庚申塔 (文字碑)

どうそじん さい 道祖神 (塞の神)

道祖神は境を守る神であり、サエノカミやドウロクジンなど地域によって様々な名前と呼ばれています。自然石や文字が彫られた碑、男女一対の双体型の石像などをむらの入口や、道が交わる辻などに祀りました。むらに疫病神や災いが入るのを防ぐ災厄除けの神としてだけでなく、交通安全や縁結び、安産や子守の神など、その性格は多様です。

こうしんとう 庚申塔

60日に一度「庚申」の日がめぐってきます。この日に宿主の人間が眠ると、体内にいる三戸の虫が天へ昇り宿主の悪事を天帝に報告してその人の寿命を縮めるとされ、それを防ぐためにむらの人々が集って一晩中起きている「庚申待」が行われました。庚申塔もまた、むら境や道に建てられます。そこには庚申待の本尊である青面金剛や、「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿などが彫刻されました。

いしがんとう 石敢當

「石敢當」と彫られた石を三叉路の突き当たりや辻に建てたもので、主に沖縄県に分布しています。まっすぐ進む魔物が、突き当りの家に入り込むのを防ぐためのものといわれています。

石敢當 (旧所在地・沖縄県宮古島)

<参考文献>

神奈川県企画調査部県史編集室編『神奈川県史 各論編5民俗』神奈川県、1977年

川崎市編『川崎市史 別編 民俗』川崎市、1991年

川崎市立日本民家園編『日本民家園収蔵品目録5 旧清宮家住宅』川崎市立日本民家園、2006年

川崎市立日本民家園編『民家の一年』川崎市立日本民家園、2018年

多摩文化財愛護ボランティア編『年中行事』多摩文化財愛護ボランティア、2002年

(玉井里奈)

ここで
見られ
ます

信越の村(5)水車小屋下の園路



(左) 双体道祖神 (旧所在地・長野県佐久穂町)

(右) 道祖神

(享和元年(1801)、旧所在地・群馬県沼田市利根町)

ここで
見られ
ます

文字碑→信越の村(5)水車小屋下の園路
青面金剛碑→(16)旧清宮家住宅前



(左) 庚申塔 文字碑

(万延元年(1860)、旧所在地・長野県佐久穂町)

(中、右) 庚申塔 青面金剛碑

(元禄15年(1702)、旧所在地・川崎市多摩区登戸)

(12) 沖永良部の
高倉前

ここで
見られ
ます



日本民家園だより vol.95

発行：令和4(2022)年1月4日

川崎市立日本民家園 URL <https://www.nihonminkaen.jp/>

〒214-0032 川崎市多摩区枡形7-1-1 TEL 044 (922) 2181 FAX 044 (934) 8652

交通 小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [3~10月] 9時30分~17時 [11~2月] 9時30分~16時30分 (入園は閉園30分前まで)

休園日 毎週月曜日(祝日の場合は開園)、祝日の翌日(土日・祝日の場合は開園)、12月29日~1月3日 ※臨時休園あり

入園料 一般500円、高校・大学生300円(要証明書)、65歳以上300円(川崎市在住の方無料、要証明書)、中学生以下無料

